

# 街道を歩く

**大須観音**（北野山真福寺宝生院、真言宗智山派）

建久年間(1190~98)尾張国中島郡大洲(現羽島市大須)に聖徳太子作聖観世音菩薩安置した中島観音が始まりとされ元弘3年(1333)能信上人がこの地に真福寺を建て開山。この地は水害が多いことから慶長17年(1612)家康が成瀬正成に命じこの地に移される。古事記をはじめ国宝、重文など保有する大須文庫は有名。

西別院

もとは伊勢長島の願証寺。天正2年(1574)長島の一方向一揆  
敗北で廃寺。顯如上人、信長の許し得て清洲に再興。清洲越し  
て現在地に、享保2年(1717)西本願寺の別院となる。  
文化14年(1817)葛飾北斎が量120量の紙に達磨を描いて  
話題になる。

**栄国寺** (浄土宗)

かつての処刑場跡、寛文4年(1664)には200余名のキリシタンが処刑されたという。翌年清宗光友は土器野(新川町)に移しその菩提を弔うために清涼庵建立、後米国寺と改称。本尊は木造丈六の阿弥陀如来像。(光友の命で犬山塔ノ池の薬師寺から移されたもの)  
境内に切支丹遺跡博物館、切支丹燈籠、千人塚等がある。

**青悲大寺**（如来教本山、尼寺）

宝暦年間(1751-64)この地で生まれた喜之が47歳の時突然神がかりを体験、説法を説いたのが始り。道沿いの地藏堂に鉄地藏菩薩立像がある。旗屋町にあった3体の鉄地藏の1体。応永6年(1509)の造像とされる。

## 断夫山古墳

全長151mの前方後円墳。東海地方最大。  
5C後半-6C。被葬者は宮簀媛？、日子媛？  
定かでないがいずれこの地方に勢力を持  
った首長と考えられる。

誓願寺

この付近は平安時代末期、熱田大宮司家藤原氏の下屋敷のあったところと伝えられる。宮司藤原季範の娘が源義朝と結婚。久安3年(1147)頼朝を生んだといわれる。境内には「頼朝公産湯池」と伝えられるものがある。

## 岡部又右衛門尉宅跡

岡部家は代々宮大工 斉藤道三が尾張に忍び込み  
城作りに岐阜に呼んだのが又右衛門。その子に俊は  
安土城築城の総大匠司勤める。その子宗光は秀吉の  
京都大仏殿造営、家康の名古屋城築城の大匠司  
を勤める。

成福寺

熱田宿の奉公人や旅人亡くなると葬儀や埋葬供養した寺。境内には文化10年(1813)海難、漂流した督乗丸供養碑(船頭音吉の碑)があるという。

美濃街道：01 伝馬—金山—古渡—大須—若宮大通

**若宮神社** 祭神に徳天皇、応神天皇、武内宿禰  
文武天皇(697-707)時代に創建という。  
織田信秀によって再建。もとは三の丸、那古野  
神社に隣接していたが名古屋城築城の時に  
現在地に移される。

政秀禪寺（臨濟宗）

信長が傳役であった平手政秀の菩提を弔うために  
僧沢彦を開山として創建。もとは小牧市小木に  
あったが清洲に、“清洲越し”で現在地に移る。  
沢彦(たくげん)は“岐阜”の命名者。

## 万松寺(曹洞宗)

天文9年(1540)織田信秀が名古屋村(錦2、札の辻辺り)に建立。僧大雲開山。名古屋城築城の時ここに移る。信長が父信秀の葬儀の時に抹香を仏前に投げつけたのはこの寺。信秀の墓がある。

古渡城址・東別院

天文3年(1534)織田信秀がそれまでいた那古野城を信長に譲り、ここに城を築いた。その後信秀は木森城に移り廃城になる。袋町に名古屋御坊があったが元禄3年(1690)2代尾張藩主友光がこの地を寺に寄進。ここに移り文化2年(1785)社友大々本堂建てられる。戦災に遭う。昭和37年再建。



金山神社(祭神 金山彦命ほか)

熱田神宮鍛冶職尾崎氏宅跡。  
尾張鍛冶発祥の地。応永年間  
(1394-1428)に尾崎善光が勧請、  
創建。金属業者の崇敬厚い。  
"金山"地名の由来もここから。

熱田神宮

祭神・熱田大明神(草薙剣を御霊代とする天照大神)、  
相殿神として素盞鳴命、日本武尊、宮簀媛命、建甍稚命。  
日本武尊は東征後宮簀媛を妃とした後、草薙剣を宮簀媛  
に預け伊吹山に出向いた。そこで山神に遭ひ病に倒れ、  
伊勢国能楽野で亡くなる。そこで媛はこの熱田の地に社を  
建て剣を奉安する。これが熱田神宮の創祀とされる。  
社殿は皇大神宮(内宮)になって神明造り。  
境内には信長が桶狭間合戦後奉納した築地堀(信長堀)、  
佐久間盛次の4男勝之が海難をのがれたことに感謝して  
寄進したという佐久間燈籠、名古屋最古の石橋といわれ  
25丁橋がある。



美濃路7宿-①

平成 17 年 09 月 5 日

あきやま